



## VOLVO CAR JAPAN

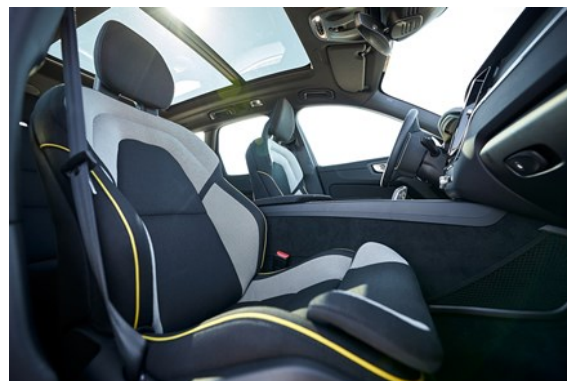
Press Release

2018年9月21日

### ボルボ・カーズ、G7海洋プラスチック憲章を支持 業界に先がけてプラスチック汚染削減を支援

本プレスリリースは、9月20日スウェーデン本社発、プレスリリースの翻訳版です

ボルボ・カーズは今週、世界最大の環境サミットの一つである G7 海洋協力サミットに参加します。ボルボ・カーズはこの G7 サミットに招待された唯一の自動車メーカーであり、サステナビリティに関する自動車業界の先導役としての企業姿勢を明確に示しています。



カナダ、ハリファックスで開催されるこのサミットには、各国の政府、企業、NGO が集まります。ボルボ・カーズは、G7 海洋プラスチック憲章の支持および支援を明確にします。ボルボの新型車に使用するリサイクル素材の割合を大幅に増やすことを目指した「プラスチック・ビジョン」など、独自のサステナビリティ・プログラムを発表します。

ボルボ・カーズは環境への影響を最小限に抑えることを目標としており、自動車産業の中で最も意欲的なサステナビリティ・プログラムを掲げています。プラスチック汚染を減らし、より多くのリサイクル素材を自動車に使用するという取り組みは、このプログラムの重要な要素となります。

報道関係お問い合わせ先  
ボルボ・カー・ジャパン 広報部

G7 海洋プラスチック憲章では、リサイクル・プラスチックの割合を高め、社会のプラスチック汚染を減らすなど、世界的な海洋プラスチック汚染問題に取り組むための具体的かつ野心的な措置を講じるよう、各国政府に求めています。ボルボ・カーズは、自動車メーカーとして初めてかつ唯一、同憲章の支持を表明しています。

ボルボ・カーズ・サステナビリティ委員会の委員長兼顧問弁護士で、グループ法務担当上級副社長であるマリア・ハンバーグは、次のように述べています。「ボルボ全体としてのサステナビリティに対するアプローチは、G7 海洋プラスチック憲章を支持した企業の自然な成り行きとして、同憲章を積極的に支援することです。」

今年初め、当社は 2025 年までに新たに発売されるボルボの新型車に使用するプラスチックの最低 25%をリサイクル素材にする目標を掲げました。この目標の可能性を検証するため、ボルボ・カーズは XC60 T8 Twin Engine (PHEV) の特別仕様を製造し、安全性や品質を犠牲にすることなくリサイクル材料を組み込むことができることを証明しました。当初、関連のサプライヤーと行われた再生プラスチックについての議論でも、肯定的な意見が寄せられました。

最近行われたボルボ・オーシャンレースでも、海洋プラスチック汚染問題に取り組みました。この取り組みは、世界各地でボルボ・カーズの何千人もの従業員が参加して成功を収めたビーチクリーン・イベントと同様、オーシャンレースの一部として行われる海洋汚染調査のためのボルボ・カーズの資金援助にも反映されています。

ボルボ・カーズのオフィスや事業所でも、プラスチック汚染を減らすことに取り組んでいます。ボルボ・カーズは 2019 年末までに、全てのオフィスや食堂、イベントから使い捨てプラスチックを根絶することを決定しました。このプログラムでは、カップ、食品容器、ナイフやフォーク、スプーンなど、年間 2,000 万個以上の使い捨てプラスチック製品を紙、パルプ、木材などの生分解性原料を使用したより持続可能な製品に置き換えます。

ボルボ・カーズは、製品および事業のいずれにおいても、環境への影響を低減させることに幅広く取り組んでいます。2017 年には、2019 年以降に発売されるすべての新型車を電動化するという公約を業界に先駆けて発表しました。また今年の春、ボルボ・カーズはこの戦略を後押しするため、2025 年までに世界の車両販売台数の 50%を電気自動車にすることを目指すと発表しました。

また、ボルボ・カーズは 2025 年までに気候のバランスを崩さないクライメートニュートラルな製造業となることを目指しています。今年 1 月には、スウェーデンのシェブデにあるエンジン工場が、初めてクライメートニュートラルな施設となりました。